



年 組 名前

道新でワークシート

市内住宅火災 今月7件

市消防「乾燥期、燃え広がり早い」

札幌市内で10月に入り、住宅火災が相次いでいる。10日までに昨年同期比6件増の7件が発生し、1人が死亡、3人が負傷した。道警や消防によると、ストーブ関連の出火やたばこの不始末などが原因とみられる。空気が乾燥する秋から冬にかけての時期は、火の燃え広がりが早く、火災による死者が増える傾向にあり、市消防局は防火対策の徹底を呼びかけている。

8日に出火した同市東区の木造2階建て住宅では、この家に住む男性(79)が顔などに軽いやけどを負った。札幌東署によると、男性は「30年ほど使用していなかった石炭ストーブを使

防火対策の主なポイント

- ・ストーブを使用する前に清掃や点検をする
- ・火元の近くに布団や紙類など燃えやすいものを置かない
- ・電気機器の配線が家具などの下敷きになっていないか確認する
- ・吸い殻は水を入れた容器に捨てるなど完全に火を消してから処分する
- ・仏壇のろうそくや線香に火を付けたままその場を離れない

※札幌市消防局の資料などを参考に作成

2日に同市北区で起きた住宅火災では、住人の男性(90)が死亡。札幌北署によると、1階仏壇の燃え方が激しいという。

市消防局予防課によると、10日までに発生した住宅火災の出火原因別(速報値)では、電気関係が2件、たばこやコンロ、線香が各1件と続き、その他が2件



だった。「火災の多くは注意を払えば十分に防げる可能性があった」とする。

秋以降は死亡火災が増加する傾向にある。昨年、市内で発生した住宅火災による死者は計23人。このうち半数近い11人が10、12月に集中した。この期間には52件の火災が発生した。

朝晩の気温が下がるこれからの時期は、特にストーブ関連の火災も多く、同課の山梨真紀・地域防火支援担当係長は「乾燥期は火の燃え広がりが早

札幌市東区の住宅で発生した火災。石炭ストーブが火元とみられる。8日午後1時ごろ

く、逃げ遅れも懸念される。ストーブの近くに燃えやすいものを置いたり、洗濯物を干さないなど火災予防を徹底してほしい」としている。

(前野貴大)



年 組 名前

道新で ワークシート

① 写真(しゃしん)の中にいる人物は何の仕事(しごと)をしている人ですか。
記事(きじ)中の言葉を使って書きましょう。

② 火災(かさい)のとき、火の燃(も)え広がりが早いのはどの季節(きせつ)ですか。
一つ選んで○を付けましょう。

- 【 】 春から夏にかけてのあたたかくなる時期
- 【 】 秋から冬にかけての空気が乾燥(かんそう)する時期
- 【 】 どの季節もあまり変(か)わらない

③ 火事が起こらないようにするために、あなたが家でできる取り組みを考えて書きましょう。